

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人あすなろ会	代表者	竹内一夫	法人・事業所の 特徴	ほぼ同敷地内に法人の保育園、福祉施設があり法人行事を通してだけでなく日頃より交流があり、園児さん利用者さん双方にとって心とむい時間となっています。役割のある喜びを感じていただき、笑顔がたくさん見られるよう家庭的な雰囲気を大切にし、季節の行事やお出かけ、料理、お菓子作りなどとりいれています。家族さんもゆとりをもって介護できるよう状況によって都度必要なサービスを柔軟に提供し、在宅での生活を日々かわりなく過ごされるよう支援します。
事業所名	あすなろ多機能型居宅介護施設	管理者	飯塚久代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	.3 人	人	1人	1人	人	4人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	30年度も職員全員でひとつの目標を毎月掲げる。翌月に持ち越さないよう取り組み、振り返る。気づきノートの活用により情報共有を徹底する。評価ガイドの勉強会の時間をしっかりとる。	職員全員でひとつの目標に取り組んだが、持ち越す月もあった。気づきノートの様式を変更しその日の利用者さんの様子を振り返ることが出来た。評価ガイドの研修時間をとることは出来たが、全職員一緒には出来ず不十分なところもあったと思う。	毎月の目標を立てることで、スタッフ全員が情報共有の方法や記録の仕方、リスクマネジメントなどが良くなるように真剣に考えて、サービス向上のために改善を図っていた。スタッフ評価も全員が行った。	31年度も職員全員で改善計画を達成するための目標を毎月掲げる。目標をより意識するために、毎月の目標を事務所内に掲示する。ヒヤリハットの原因と対策は当日のうちに取り組む。自己評価についての研修を31年度も事前に行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	1階だけでなく2階も、音楽や花、作品など心地よい環境となるよう利用者さんと一緒に考え実行する。引き続き、玄関、ホール内の不要な椅子やベッドを移動し、十分な広さの確保を常に意識する。	利用者さんが作成した作品を飾ったり、毎月のカレンダーを居室に貼るなど聞きながら行った。日中、夜間、ホール内等不要なものがないよう声かけしあい実行できた。	季節季節の飾り付けや作品が掲示してあり、よかった。昔懐かしい歌が流れており、利用者の方が笑顔で聞いておられ、良い雰囲気だった。	壁面作りを利用者全員で取り組み、達成感を感じて頂き、話題のひとつにしてもらう。宿泊する方の部屋は安心感ができるように、その人らしさができるように利用者さんと話し合う。あすなろ畑だけでなく、利用者の方ひとりひとりにプランターで植物を育て頂き楽しみのひとつにして頂く。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事に出かけた先で、笑顔で積極的に挨拶する。状況により、利用者さん職員だけで過ごすのではなくその場にいる方も同じ時間を過ごす。コミセンの文化祭出展を目指し利用者さんが作品を作る。	コミュニティーセンター文化祭への作品作りは「何を作るか」という段階でまとまらず計画倒れになってしまいました。挨拶は積極的に出来た。	地域との関わりは年々希薄になってきているので、地域の方にしっかり笑顔であいさつをすれば、それで十分ではないだろうか。あすなろの職員さんはあいさつがしっかりできているので気持ちが良い。近隣の方にもそのあいさつを続けられればいい関係が築けると思う。	コミセンの文化祭出展を目指して、利用者さんと作品を作る。近隣や、出掛けた先で積極的に挨拶をする。ボランティアさんに来て頂き、交流がより活発になるようにする。「高松マップ」や、新聞、週報等を見て、利用者さんと話し合い、おでかけの計画を立てて、積極的に出かける。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	毎年参加している行事等には引き続き出かける。希望をとって利用者さん自身が外出計画(買い物など)をたてられるよう支援する。	地域のイベント等に出掛けました。スーパーでの買い物など利用者さんの希望にそうお手伝いが出来ました。	お花見や、地域の行事、お買い物に行った時の写真やご様子を聞くと楽しそうな雰囲気が伝わってきた。	毎年参加している行事などには引き続き出かける、地域との交流を続ける。できるだけ利用者の方の希望に沿った外出計画を考え、そのひとらしさができるよう努める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	職員会議時に、地域資源のひとつの事業所として利用者さんをどのように支えられるかしっかり話し合い、必要時には運営推進会議時に相談する。	運営推進会議に職員も参加できた。事業所が「地域資源のひとつ」としての自覚は職員によって違いはありましたが、利用者さんや家族さんが在宅での生活を少しでも長く続けられるようお手伝いする思いは同じでした。	地域での文化祭やイベントなど参加している。事例検討は個人情報のことがあり難しい。近くにある地域密着型デイサービスさんとお互いの会議に参加して交流しみるのもいいかもしれない。	31年度も、職員は順番に参加する。近くの地域密着型デイサービスさんへ出席して頂けるようお願いする。
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練計画に沿って訓練を行い報告する。避難経路にものを置かない、備品の確認など職員各自が常に災害への意識をもつ。お互いに声かけする。	防災訓練計画に沿って訓練を行った。利用者さんとの訓練は役割を確認しながら、先にたつての誘導も交替しながら行った。避難経路にものを置かないよう徹底できた。	火災、水害、地震への避難訓練を行っている。引き続き行って欲しい。訓練により利用者さん、職員も日々意識出来るのではないかと。	防災訓練計画に沿って訓練を行い、振り返る。運営推進会議時報告する。避難経路にものを置かない、整理整頓するなど職員各自が常に災害意識への意識をもち取り組み、お互い声掛けする。